

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「日本聖公会の新たな歩みに向けて」

管区事務所 総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るであろう。」(ヨハネ13:34-35)

2026年という新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。先日行なわれました各教区正義と平和担当者会では、昨年の敗戦後80年を振り返り、81年目という新たなスタートに向けて報告や議論が交わされました。詳細な報告は来月号の管区事務所だよりに掲載予定ですが、そこで紡がれた言葉や考えたことを少しご紹介したいと思います。

イエスさまの十字架と復活・宣教の業を記憶し記念し続ける共同体である教会は、歴史を記憶し、今を読み解き、未来に伝える役割があるのだと思います。特に近代史を深く学べていないであろう若い世代の方々と共有していく方策が課題としてあげられました。平和は信仰の根源の課題であって、決して政治的なことではなく、地域と共に、ことに弱い立場に置かれた人々と共に歩む教会として、公共性を持つ課題です。様々なつながりの中で共感を生み出し、そのために出かけていく姿勢を持ちたいと思います。また、すべての被造物と共にある平和を構築する教会、誰もが安全で安心な居場所となれる教会として、「セーフチャーチ」の文化を醸成させていきたいと思います。平和や人権に関する代祷表を作成してはどうかという話もありました。

『戦後81年を歩み出す2026年、日本聖公会につらなる一人ひとりに求められているのは、「正しい立場に立つこと」以上に、「傷ついた世界のただ中に留まり続けること」です。祈り、学び、悔い改め、行動する、その小さく、しかし確かな積み重ねこそが、教会をこの社会における「平和のしるし」として立たせ続ける力となるでしょう。「神のみ声に、人々の声に、そして世界の声に耳を傾ける」ことから、わたしたちの働きは始まります。』と、管区事務所宣教主事より呼びかけの提案もありました。

口会議・プログラム等予定

(2026年1月25日以降・前回未掲載分)

1月

- 28日(水) 文書保管委員会〔管区事務所〕
- 28日(水) 金融資産運用・管理チーム会議〔管区事務所〕
- 28日(水) 沖縄プロジェクト会議〔沖縄教区センター+Web〕
- 30日(金) セーフチャーチ・ガイドライン・タスクチーム会議〔聖公会神学院〕
- 30日(金) ～31日(土) ハラスメント防止・対策担当者会〔聖公会神学院〕

2月

- 2日(月) 財政主査会〔管区事務所〕
- 2日(月) 主事会議〔管区事務所〕
- 3日(火) 原発問題プロジェクト会議〔Web〕
- 6日(金) 正義と平和・憲法プロジェクト会議〔Web〕
- 10日(火) ～12(木) 定期主教会〔川越基督教会〕
- 12日(木) 常議員会〔管区事務所〕
- 13日(金) 年金委員会〔管区事務所+Web〕
- 16日(月) 神学教理委員会〔管区事務所〕
- 19日(木) ナザレ委員会〔管区事務所〕
- 20日(金) 資料保管に関する東西合同会議〔Web〕
- 21日(土) 原発のない世界を求めるZoomカフェ〔Web〕
- 23日(月) 第70(臨時)総会〔管区事務所+Web〕
- 24日(火) ～26(木) 管区共通聖職試験〔各教区〕
- 27日(金) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議〔Web〕
- 27日(金) 人権問題担当者会議〔Web〕

3月

- 3日(火) ～5(木) 日韓協働合同会議〔福岡聖パウロ教会〕
- 9日(月) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会〔管区事務所+Web〕

(次頁へ続く)

教区再編と宣教体制の再構築の始まりの年でもあります、イエスさまの愛の掟に従って、世界の平和を実現するために祈り・行動する新たな年ともしていきたいと願います。主と共に。



(前頁より)

- 13 日(金) ～ 14(土) NVC 非暴力コミュニケーション研修会〔聖公会神学院〕
 17 日(火) 第 70(臨時) 総会書記局会議〔管区事務所〕
 26 日(木) 管区共通聖職試験委員会〔Web〕

＜関係諸団体会議・他＞

- 1 月 29 日(木) WCRP 新春交流レセプション〔立正佼成会〕
 2 月 2 日(月) NCC 常議員会〔Web〕
 3 月 12 日(木) ～ 14 日(土) マイノリティ円卓会議〔ルーテル市ヶ谷センター〕
 14 日(土) 2026 年「NO! Racism! HIROBA」〔聖アンデレ教会・東京〕
 25 日サラ・ムラーリカンタベリー大主教着座・就任式〔英国・カンタベリー〕

□各教区

神戸

- ・ 阪神淡路大震災追悼記念礼拝 2026 年 1 月 17 日(土) 神戸聖ヨハネ教会 5 時半: 発生の祈り 10 時半～: 追悼記念聖餐式 12 時: 点鐘・終了 司式: 司祭 坪井智 説教: 主教 八代智 (聖餐式後、救急救命講習会開催予定)

沖縄

- ・ 礼拝堂聖別解除式 2026 年 1 月 24 日(土) 10 時～ 旧南静園聖ミカエル教会礼拝堂 司式: 主教 上原榮正 式典長: 司祭 岩佐直人

□神学校

日本聖公会神学院

- ・ 2025 年度 聖公会神学院 第 2 回説教セミナー 2026 年 2 月 24 日(火) ～ 26 日(木) 講師: 平野克己(説教学非常勤講師、日本基督教団 代田教会牧師)

《人事》

管区

- | | | |
|-----------|-------------------|-----------------|
| エデディオ鈴木 一 | 2025 年 12 月 31 日付 | 管区事務所広報主事の任を解く。 |
| ピカステス田村浩一 | 2026 年 1 月 1 日付 | 管区事務所広報主事に任命する。 |

東北

- | | | |
|------------|-------------------|--------------------|
| 司祭 パウロ渡部 拓 | 2025 年 12 月 31 日付 | 能代キリスト教会管理牧師の任を解く。 |
| | 2026 年 1 月 1 日付 | 能代キリスト伝道所管理を命ずる。 |
| パウロ 浅原和裕 | 2025 年 12 月 31 日付 | 教区事務所主事の任を解く。 |

セント・クリストファー 赤坂聖矢

2026 年 1 月 1 日付 教区事務所主事を委嘱する。

<信徒奉事者認可および分餐奉仕協力許可> 2026 年 1 月 1 日付 (任期 1 年)

(青森聖アンデレ教会) ミカエル石黒信平、アタナシオ石場広樹、ダビデ石場正樹、ギデオン白鳥五大

(弘前昇天教会) パトリック外崎範、フランシス畠山秀文

(仙台基督教会) セント・クリストファー赤坂聖矢、バルナバ赤坂有司、ペテロ中村賢治、ステパノ西重明、フランシス林裕登、サムエル平林健、パウロ福土正明、ヨハネ三浦智弘、ヨハネ村上道夫

(仙台聖フランシス教会) パウロ齋藤眞三、ヨセフ長井淳、サムエル渡部正裕

(山形聖ペテロ教会) ハンナ秋山直美、マタイ山崎薫

(郡山聖ペテロ聖パウロ教会) シリアのエフレム亀井浩一、ルシア国分敬子、ヨハネ柳沼芳裕

<信徒奉事者認可> 2026 年 1 月 1 日付 (任期 1 年)

(八戸聖ルカ教会) ルカ小沼雅義、ジョージアナ亀本廣子、クララ栗林栄子、フランシス栗林一成、マリア佐々木恵、ダビデ佐藤光宣、パウロ島守信昭、アイリーン千田留美子

(盛岡聖公会) トマス赤坂健、ルカ赤坂徹、ソフィア赤坂康子、サムエルー戸舒也、アイリーン坂水かよ、クリスチーナ曾根美砂、アタナシオ曾根勇司、ルツ中野由美

(仙台基督教会) ラケル中村みどり、バルナバ吉村哲夫、マーガレット若生伸子

(郡山聖ペテロ聖パウロ教会) プリスカ江川扶佐子、ルーシー加藤まり子、パウロ菅野寛、イスラエルヤコブ三宅哲、アグネス三宅裕子

(小名浜聖テモテ教会) アイリーン齋藤明美、ユニケ齋藤真理、ルツ関洋美、セシリヤ和田めぐみ

横浜

執事 セバスチャン染谷孝章 2026 年 1 月 1 日付 柏聖アンデレ教会牧師補に任命する。

九州

司祭 バルナバ牛島幹夫 2025 年 12 月 31 日付 長崎聖三一教会牧師及び佐世保復活教会・厳原聖ヨハネ教会管理牧師 解任。退職。

主教 マルコ柴本孝夫 2025 年 12 月 31 日付 佐賀聖ルカ伝道所管理牧師 解任。
2026 年 1 月 1 日付 長崎聖三一教会・佐世保復活教会・厳原聖ヨハネ教会管理牧師 任命。司祭 ヨハネ李 浩平 2025 年 12 月 31 日付 佐賀聖ルカ伝道所主日礼拝協力 解任。
2026 年 1 月 1 日付 佐賀聖ルカ伝道所管理牧師 任命。執事 ダビデ佐藤 充 2025 年 12 月 31 日付 佐世保復活教会・厳原聖ヨハネ教会主日礼拝協力 解任。
2026 年 1 月 1 日付 佐世保復活教会・厳原聖ヨハネ教会牧師補 任命。

司祭 キャサリン吉岡容子(退) 2026 年 1 月 1 日付 管理牧師主教マルコ柴本孝夫のもと佐世保復活教会礼拝協力 委嘱。ただし、3月までとする。

<信徒奉事者認可および分餐奉仕協力許可> 2026 年 1 月 1 日付 (任期 1 年)

(福岡聖パウロ教会) 有村元伸、酒井健、園木一男、下村仁士、早川寛
 (小倉インマヌエル教会) 東美香子、石垣猷、河原忍、金野実加枝、山崎俊男
 (佐世保復活教会) 辻裕子、山口孝子
 (鹿児島復活教会) 岡積丈夫、川崎祐子、古城順子、平岡郁代

<信徒奉事者認可> 2026 年 1 月 1 日付 (任期 1 年)

(福岡ベテル教会) 馬越隆子、簗田紘子
 (久留米聖公教会) 真木信行
 (佐賀聖ルカ伝道所) 佐藤群
 (熊本聖三一教会) 秋山みどり、島卓郎
 (宮崎聖三一教会) 阿万留美
 (大分聖公会) 小河正雄、古澤正之

沖縄

司祭 ヨハネ戸塚鉄也 2025 年 12 月 31 日付 南静園聖ミカエル教会管理牧師の任を解く。

《教会・施設》

大館聖パウロ教会・能代キリスト教会 (東北)

2026 年 1 月 1 日付 日本聖公会東北教区第 110 (定期) 教区会の決議により、日本聖公会東北教区大館聖パウロ教会と日本聖公会東北教区能代キリスト教会を合併し、新教会名を日本聖公会東北教区大館聖パウロ教会とする。

能代キリスト伝道所 (東北) 2026 年 1 月 1 日付 日本聖公会東北教区第 110 (定期) 教区会の決議により、日本聖公会東北教区の伝道所として、日本聖公会東北教区能代キリスト伝道所の設立を認可する。

大阪聖パウロ教会 (大阪) 2025 年 12 月 31 日付 移転に伴う住所 (郵送物送付先) 変更
 新住所: 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里 3-1-72 聖贖主教会気付

南静園聖ミカエル教会・宮古聖ヤコブ教会 (沖縄)

2026 年 1 月 1 日付 日本聖公会沖縄教区第 75 (定期) 教区会の決議により、南静園聖ミカエル教会と宮古聖ヤコブ教会を合併し、教会名は宮古聖ヤコブ教会とする。

旧南静園聖ミカエル礼拝堂 (沖縄)

2026 年 1 月 24 日 聖堂聖別解除



「日本聖公会緊急災害援助募金」の受入と送金先について（報告）

期間：2025 年 1 月 1 日～12 月 31 日

皆さまから管区へお献げいただきました災害被災者支援や難民救援のための募金は、緊急援助を必要とする地域への支援のためにお預かりしています。日本聖公会では「緊急災害援助資金」を設け、国内外からの救援要請に迅速に対応するための体制を整えています。

今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

◆管区事務所へお寄せいただいた援助募金（のべ 169 団体・2 名）：

緊急災害援助のため（4 件）	171,500 円
能登半島地震被災者支援のため（44 件）	1,715,607 円
ミャンマー地震被災者支援のため（104 件）	6,040,984 円
パレスチナ／アル・アハリ病院支援のため（14 件）	412,840 円
ウクライナの人々のため（4 件）	25,901 円
フィリピン台風被災者支援のため（1 件）	1,000 円

◆管区から各団体への送金：

1 月 8 日	フィリピン台風被害支援のため ※管区緊急災害援助資金から支出	フィリピン独立教会ロンボロン＆ ミンドロ教区	100,000 円
2 月 20 日	能登半島震災支援のため ※管区緊急災害援助資金から送金	京都教区 能登半島地震対策室	937,694 円
2 月 21 日	パレスチナ／アル・アハリ病院 支援のため ※管区緊急災害援助資金から送金	エルサレムおよび中東聖公会／エ ルサレム教区へ	1,000,000 円
4 月 24 日	ミャンマー震災支援のため ※管区緊急災害援助資金から送金	WCRP 日本委員会	200,000 円
5 月 14 日	ミャンマー震災支援のため ※管区緊急災害援助資金から送金	ミャンマー聖公会 （大韓聖公会 聖架修道院経由）	519,155 円 (3,500 USD)
8 月 19 日	ミャンマー震災支援のため	ミャンマー聖公会 （GCEA 主教会の際に手渡し）	3,592,073 円 (23,790 USD)
11 月 4 日	パレスチナ／アル・アハリ病院 支援のため ※管区緊急災害援助資金から送金	国連パレスチナ難民救済事業機関 （UNRWA）	200,000 円

※これからも随時送金を行なって参ります

各教区人権担当者会 《総合報告》

－ 2025 年 12 月 3 日～4 日 長崎聖三一教会 －

人権問題担当者 ルディア 植田 栄基（東京）

12月3日、4日長崎聖三一教会を会場として、各教区人権担当者会が行なわれました。戦後80年に当たり被爆地で存命される被爆者の声をお聴きする、日本の侵略戦争の犠牲となった外国人の方々の痛みを正しく知る、禁教令の中で潜伏キリシタンとして信仰を守り続け磔の刑に処せられた「日本二十六聖人記念館」での学びがプログラムに入れられました。

ウィリアムズ主教が日本に上陸された地に始めて開かれた長崎聖三一教会の牛島司祭により教会の来歴を伺った後、聖堂へ移動しました。「人は容易に差別する側に立つ、時に驚くほど差別される側の痛み鈍感になる」2025/12/1の天声人語の記事を引用され、なぜ差別は無くないのか、第三者に身を置く事が差別する側に立ち痛み鈍感になる事であると自覚し、現実の中での自分のあり様をいつも見つめていよう。という短い入江主教のススメがありました。

セッション1

長崎原爆被災者協議会 長野靖男氏

キリスト者の集まりという事で、潜伏キリシタンのオラショを聴かせて頂く。自分の全てを投げ打ってささげる祈りは長野さんの姿に重なります。世界は必ず変わると未来を見据えて若い人たちの体験を話し実相を語り継ぐ事、日本国民全体が、日本国憲法で世界に約束した武器を持たない、戦争をしない、国を守り、核廃絶を訴える大切さ、平和は長崎から、長崎を最後の被爆地にと強く願い活動を続けておられます。ご自身は被爆10年から声をあげ始めたのに国からの援助は何も無く、極貧の中で成長し、三菱重工の造船マンになり家族を養って来られた事、1985

年に渡辺千恵さんに出会い音楽構成「平和の旅へ」の創作に関わって来られた事などが語られました。

セッション2 各教区報告

- * 各教区ほぼ共通してハラスメント防止対策に対応し具体的な活動、運営の難しさ等について話された。
- * 西日本宣教協働区の人権担当者会の様に3教区が合同で人権問題の情報共有化を図り平和礼拝に相互参加している。
- * 人権・平和の学びは聖公会に留まらず、エキュメニカルな連帯が出来ている。
- * キリスト教団体および他宗教との交流を通して人権の学び、行動をしている。
- * 教区独自の活動：アイヌ民族委員会設置、東日本大震災被災者支援、草津委員会継続・承認の要請、エイズ礼拝終了・報告書作成、野宿者を支援する会からの教育委員会・愛知県警察本部公安委員会への要望書提出、フラワーデモ・性暴力根絶運動への参加など、含んでいる問題点に共通しているのは、尊ばれるべき人権に深く関係しているものばかりで、教区を超えての学び・活動の機会が創出されるよう、共通の努力目標が示された。

質問

- * 合理的配慮の考え方・実施するための配慮などをどの様に捉え、現場に活かしていくか
- * 子ども食堂の活動についてなど、活発な意見交換が行なわれました。

セッション3 長崎人権平和資料館 見学

日本の侵略、戦争の犠牲になった被害者の痛みを心に刻み、加害責任を自覚し未だ解決をみない戦後補償の実現、反核、反戦、反差別、平和の実現を目指す資料館です。日本の皇民化政策により様々な形で日本に來日させられた朝鮮の人々、敵対国の捕虜として連行された中国の人々、侵略していた中国大陆での日本軍の蛮行など、歴史的事実であるにも拘らず歴史が書き換えられようとしている現在の日本の欺瞞の姿、多く展示された当時の写真や体験者の証言で、より明確に表現されていました。女子挺身隊と騙され軍の性奴隷にされた多くの乙女たち、私たちはどこに立つのでしょうか。

セッション4 日本二十六聖人記念館 訪問

キュレーターの案内で、日本へのキリスト教伝導の歴史、潜伏キリシタンの苦悩と信仰の伝承への強い意志、記念館の中は時間を忘れるほどの資料に溢れていました。聖人と列せられる迄のカトリック教会内部のプロセスも伺えました。物凄い数の候補の中から、キリシタン大名として国外追放されても最後まで信仰を捨てなかった高山右近が聖人に列せられているのが、なにか嬉しかったです。

記念館の前で実り豊かだった担当者会を感謝し、教区での働きに力を与えられ、散会いたしました。

各教区人権担当社会に 出席して

教区人権担当者
執事 バルナバ 岸本 望(北関東)

私にとっては32年前の高校2年生の修学旅行の折、また21年前の日本聖公会全国青年大会2004以来の長崎となりました。

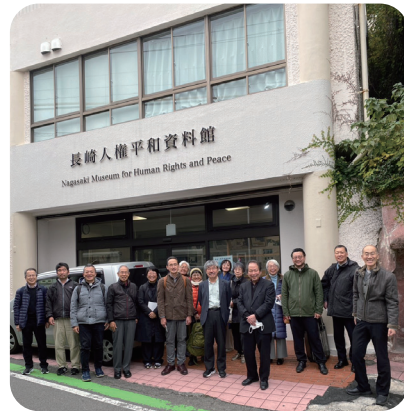
12月3日、はじめに長崎原爆の被曝者、長野靖男さんの証言を拝聴しました。長野さんの成育歴と被曝体験を皮切りに、1985年に被曝者渡辺千恵子さんと出会い証言活動に感化され、自らも証言活動・平和運動に参加するようになった道のりと、それらの経験に裏打ちされた力強い言葉が胸に響きました。「君たちの未来は核兵器のない平和な世界になる希望に満ちている。世界は必ず変わる」。「被曝者亡き時を見据えて、被曝体験を聞き被曝の実相を語り継ぐこと」。「日本が一日も早く核兵器禁止条約の加盟国となり、世界の国々から信頼され、平和な世界の実現を目指す先達に」。「人間は目の前にある困難に立ち向かい、それを克服する中で強く美しくなっていく」。長野さんの証言は昨今の核武装論や勇ましい発言が聞かれる中、「物事を長い目で見て悲観しない」との確信に基づくものでした。私は長野さんによって力づけられ、使命の火を灯されたような思いとなりました。



続いて各教区人権担当者・管区人権問題担当者からの報告と分かち合いがありました。特に各教会を拠点に活動している子ども食堂について実践的な情報交換がありました。多様なニーズに合わせた多様なスタイルがあって良いと求められていることが確認され、自治体や町内会の理解を得たり支援を受けたりすることにより、継続性をもって活動が広がっていく事例が紹介されました。

翌4日午前には長崎人権平和資料館を見学しました。被爆地長崎にあって被害者性を強調する平和運動に留まらず、日本の加害責任を史実に

よって明らかにし被害者の痛みを心に刻み、人権保障と戦後補償の実現、非戦の誓いのための献身を目指しています。展示の概要は、侵略と「皇民化」、強制連行、「南京大虐殺」、韓国・朝鮮人被曝者、戦後補償、継続する差別・人権侵害です。特に炭鉱（軍艦島が知られる）や造船業が盛んな長崎にあって、労務者として過酷な生活を強いられ被曝もした中国・朝鮮半島出身者の証言が多く展示されています。資料館はかつて「岡まさはる記念長崎平和資料館」として平和運動家岡正治さんの逝去を機に設立されました。しかしルーテル教会牧師・長崎市議会議員であった岡正治さんが、性暴力に及んでいたことが被害者の証言により明らかになりました。理事会では対応が遅れたことを被害者に謝罪し、資料館の名称変更や展示の見直しを行なうこと、2023年10月より休館すること、社会的責任としてこの事実を公表すること、二次加害防止に努めることを表明しました。2024年4月、長崎人権平和資料館として再出発しました。対応は当初遅れがあったものの、その誠実さと徹底ぶりは各方面から評価されているようです。展示においてもこの事案について相当のスペースが取られていました。「人権活動家による性暴力」は、キリスト教会における性暴力やハラスメント事案と共通する課題です。日本聖公会における「京都事件」についての初期対応や二次加害について、当資料館の事例と類比的に学ぶべきことが多いように思料します。



4日午後は日本二十六聖人記念館を見学しました。フランシスコ・ザビエルに始まる日本とヨーロッパの出会いから生まれたキリシタン文化と、キリスト教に対する迫害によって殉教した人々のメッセージを紹介する施設です。記念館がある西坂の地では、1597年から17世紀中ごろまで、キリスト教徒であるために多くの人々が処刑され殉教しました。物品や書物などの一次資料が大切に保管され展示されている他、建物や展示様式にも工夫が見られ、見学者の心に訴えかける施設となっています。聖人認定のプロセスは日本聖公会にはないローマ・カトリック教会の営みですが、その時代における宣教理解や社会理解が色濃く反映されています。単に古い慣習や迷信的なものとして退けるのではなく、現代における宣教のあり方として日本聖公会も学ぶべきところがあるように思料します。

短くも非常に濃い内容となった担当者会でありました。準備くださった管区人権問題担当者、人権問題担当主教、管区事務所総主事、長崎聖三一教会牧師の牛島幹夫司祭に感謝します。

日本聖公会 正義と平和委員会

原発のない世界を求める Zoom Café 2025 年 12 月 20 日開催

～ 一人一人の声を聴き続けること、一人一人が考え続けること

原発問題プロジェクト

マーガレット・マリア 福澤 眞紀子（東京）

正義と平和・原発問題プロジェクトでは、6月を除く偶数月の第3土曜日に Zoom Café を開催しています。

Zoom Café は、2019 年の「原発のない世界を求める国際協議会」での繋がりを保つために、2022 年に始められました。当初は参加者同士の語り合いを目的としていましたが、回を重ねるうちに、各地で原発の問題に向き合う方々の声を「聴く」場へとなっていました。そこには人々の暮らしと原発をめぐる「現地の声」が届けられています。原発問題プロジェクトでは一人でも多くの方とこの声を分かち合えたらと願い、今年も Zoom Café を開催していきます。

Zoom Café 昨年1年を通して

2 月：住民の不安が置き去りにされたまま再稼働された、東北電力女川原発。再稼働差し止め訴訟の原告団副団長であり、長年反対活動을 続けてこられた宮城県石巻市の漁師、佐藤清吾さんを迎え「なぜ私が原発に反対し続けるのか」というお話を聴きました。

4 月：大阪教区主教になられたばかりの小林聡主教より、プロジェクトでの歩みや、主教按手を前に訪ねた釜ヶ崎、沖縄（愛楽園、辺野古、うふざと教会）での黙想を分かち合っていました。

8 月：1945 年 8 月 9 日、中学一年生の時に長崎で被曝され、92 歳を迎えられた大阪教区の松岡虔一司祭が「被爆体験と長崎聖三一教会の思い出」を通していのちの重さについて

お話をしてくださいました。

10 月：アジア初の脱原発を 2025 年 5 月に実現した、台湾での長年に及ぶ市民運動の話を、現地でその感動の瞬間に立ち会った中道雅史さんから聴き、市民の連帯について学びました。またご自身が住む青森からの反核運動のお話も聴きました。

12 月：京都教区の松山健作司祭より、中高生と共に行った奥能登フィールドワークからお話を聴きました。1980 年代の珠洲での原発建設反対運動の歴史と、震災を経て「原発がなくて本当によかった」と語る現地の方々の声は、私たちの胸に深く響きました。

語られるべきは「いのちの問題」

私たちは聖書を通して、神様のみ言葉を聴きます。しかし、み言葉は聖書の中だけに留まるものではなく、額に入れて飾られるものでもなく、私たちの生きるこの複雑な時代、闇の深い世界において、生きて働く贈りものだと信じています。

教会の中で「原発問題」を語ることの難しさを耳にすることがあります。私自身、その難しさを痛感することもあります。問題を概念で考えるのではなく、具体的な誰かの目線で共に聴き、共に考える時、原発の問題は「いのちの問題」として語られ始めるのではないかと思います。Zoom Café にお招きする方々の目線や声の一つ一つを通して、気づき、感じることは、「いのちの問題」に現実的に向き合うことだと思います。

「核といのちは共存できない」

Zoom Caféは小さな集いですが、それぞれの地から生きた声が届けられています。その声の裏には、原発に関連する仕事をもつ方々の暮らしもあります。原発が動かなければ仕事を失うかもしれない方々もいます。賛成する側であつても、反対する側であつても、その苦難を一番に担うのは、常にその地域に暮らす人々であり、そして未来を生きる世代です。

15年前の東京電力福島第一原子力発電所の事故を通して、私たちは、一度事故が起きれば取り返しがつかず、暮らしの根底が壊されることを知りました。原発の問題を「国策」や「地元の問題」と切り離し思考停止することなく、私たちは「真実」を見つめ、祈り、繋がっていきたいと思います。「いのちの問題」を一人一人が考え続け、分かち合うために、多くの方がこのZoom Caféに集ってくださることを願っています。

< Zoom Café これまでの歩み >

2022 年

「原発のない世界を求める国際協議会」や「原発のない世界を求める週間」の参加者が Web 上で集まり、近況や原発と核を取り巻く諸問題について語り合う場として、Zoom Caféが始まる。

2023 年

発題を通して考える Zoom Café に。

2 月 4 日 「原発回帰を憂う」長谷川清純主教（プロジェクト委員長）

4 月 15 日 「樋口理論について」尾関敏明さん（プロジェクト委員）

8 月 19 日 「ALPS 処理汚染水海洋放出に対する韓国内の動き」柳 時京司祭（大阪教区）

10 月 21 日 「子どもたちのいのちを守ろう」長谷川清純主教（プロジェクト委員長）、
「もっと話そう!エネルギーのこと、原発のこ

と」福澤真紀子さん（プロジェクト委員）浅原和裕さん（プロジェクト委員）のボヤキ

12 月 16 日 「こどもたちと原発」古賀久幸司祭（京都教区）

2024 年

現地のお話を聴く Zoom Café に。

2 月 17 日 「能登半島地震から考える原発と私たちの生活、そして「使用済み核燃料」の問題」中道雅史さん（東北教区）

4 月 20 日 「いのちを考える～原発のある地域で暮らして～」川崎祐子さん（九州教区）

10 月 19 日 読書と茶っと 『脱原発の視点で聖書を読む』 <前編>

12 月 21 日 読書と茶っと 『脱原発の視点で聖書を読む』 <後編>

2025 年

「戦後 80 年 ～神と人々と世界の声に耳を傾け、平和をつくりだそう!～」

原発のない世界を求める



世界の声に耳を傾けよう

< 神が創られた自然・世界・社会 >

100%
自然エネルギー

2011 年 3 月に発生した東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故は、多くの住民の生活や生業を奪い、長年住み慣れた土地やかけがえのない人間関係さえも破壊してしまいました。この出来事によって、私たちは「核といのちは共存できない」ことを深く心に刻み、持続可能な地球環境と被造物の本来の姿を守るため、また尊厳限りないいのちのために、「原発のない世界を求めて折り行動する者」として用いられることを望んでいます。

2ヶ月に1度（偶数月第3土曜日）の Zoom Café は、そのための、学びと分かちあいの場です。参加申込、参加費は不要。お好きな飲み物とともに、Zoom でご参加ください！

2026 年 2 月 21 日 (土) 14:00～15:30

「伊方原発反対運動の歴史と現状」

1973 年から行われた伊方訴訟は日本で初めての原発に関する行政訴訟でした。
地元での反対運動と訴訟についての流れと、現状を紹介できればと思います。

お話し：名出真一 さん



(プロフィール)

1964 年生まれ。大学在学中に大阪の釜ヶ崎、沖縄、地元の被差別部落などに関わる。チェルノブイリ原発事故から原発の危険性を再認識し、映画会などを行う。311 福島原発事故で原発立地自治体の事をまったく見ていなかった事に気付かされ伊方現地に辿り着く。現在、現地の市民団体「伊方から原発をなくす会」副代表

Zoom リンク：<https://onl.bz/UA3pSej>

ID：820 1414 1653 パスコード：822900



原発問題プロジェクト Web サイトの「Zoom Café」からもお入りいただけます。
<https://www.nskk.org/province/no-nuke-project/>



主催：日本聖公会正義と平和委員会 原発問題プロジェクト

お問い合わせ：090-1983-7244 (池住 圭)



2月15日「東北電力女川原発～再稼働と地域の人の声～」佐藤清吾さん（宮城県石巻市）
4月19日「原発のない世界を求めるために～主教按手を受けて～」小林聡主教（プロジェクト委員）
8月16日「被爆体験と長崎聖三一教会の思い出」松岡虔一司祭（大阪教区）

10月18日「台湾の原発とわたしたち」中道雅史さん（東北教区）
12月20日「能登半島地震後に原発を訪れて～志賀、珠洲を中高生と歩く～」松山健作司祭（京都教区）



2026 各教区青年担当者会報告

～ 2026年1月12日 web 開催 ～

青年委員会

委員長 司祭 ジョイ 千松 清美（大阪）

2026年1月12日にオンラインによる各教区青年担当者会を開催しました。今回は2部構成として、1部は2025年8月27日～9月1日マレーシア・コタキナバルで開催されたCCEAアジア青年大会の参加者報告会を公開視聴形式で行ない、2部は通例の青年担当者会を行ないました。

CCEAアジア青年大会は各教区から推薦していただいた青年9名が参加し、報告会には5名が出席し経験を分かち合ってくれました。報告の主な要点は、信仰への向き合い方の変化があったこと、国際的な繋がりが持てたこと、国外で同じ聖公会の仲間がいることに励ましを受けたこと、多様な意見を通じて、視点の方向転換ができるようになったことです。また中高生時代にコロナ禍を経験した世代にとって、学びはもちろん、ファンナイトやカルチャーナイトでの交流を通じて、直接顔を合わせて出会うことの価値や、大会後もSNSなどで交流を継続していく意義が強調して語られました。大会を通じて信仰の深み、

国際的な友情の始まり、多様な文化と視点への理解をもつことができたことは、各人の教区や教会でのこれからの活動の刺激と励みになったようでした。公開視聴としましたので、各教区関係者や参加者の家族など約30名が出席しました。この大会報告の詳細は、間もなく発行します報告書をご覧ください。

青年担当者会では青年委員会からの報告などの後、2つの発題をもとに宣教協働区別でグループトークを行ないました。青年委員会から青年担当者の皆様には、それぞれの役割確認をしました。ことに青年委員会が管区総会で委員会の設置議案承認に基づくものであり、青年担当者は管区からの正式な依頼に基づく職務であることが確認され、セーフチャーチ・ガイドラインに則して慎重な配慮のもとで青年活動また青年への対応をお願いしました。また2027全国青年大会の進捗として、開催地と時期の概略を報告しました。コロナ禍により開催中止とした2020年

開催地であった関西地域について再考し、関西地域、特に京都を中心にした開催地とし、2027 年 8 月～9 月の 4 日間を時期とする予定であり、昨年、京都教区の青年による実行委員会が発足し、合宿で実行委員が実体験をしながら様々な検討がなされていることを報告しました。

グループトークでは、セーフチャーチ・ガイドラインの活用と青年活動におけるリーダーの育成の 2 つを発題とし意見交換を行ないました。セーフチャーチ・ガイドラインに関しては、教会や青少年活動の際にハラスメント防止対策研修を行なうが、スタッフ全員の出席が難しく行き届かない現状や、ガイドラインの記述された表現が抽象的で現場での具体的な対応に迷うといった課題が挙げられました。管区への要望としては、セーフチャーチガイドラインに沿った具体的な事例集の作成をお願いしたいとの意見が出ました。もう一つの発題であるリーダーの育成に関しては、青年を教区会など大きな場に巻き込

む重要性や、同世代の交流の場を教区単位で設け、青年同士の励まし合いの機会を作るなどの意見が出されました。また教会のなかで年齢や立場のゆえに上下関係が出来る場合、青年が教会に居づらくなるため、教会の雰囲気良くし、相手側に立って表現されていることを受けとれるように、教会の課題として聴く訓練をするためにも、この青年担当者会に青年の臨席をしてもらい、意見交換をするという提案がありました。青年委員会がこのグループトークを宣教協働区別にする事で期待したことは、新教区設立や教区間協働の状況を共有することで、今後の教区という枠を超えた青年活動のあり方を広い範囲で将来性をもちながら語られることでした。持ち時間が短かったことと、対面でないその場の雰囲気などの困難さがあり、深い話し合いにならなかったと思いますが、2 つの発題は今後の課題として継続していく予定です。

世界の聖公会の動向

☆世界最長の奉仕の年数を誇る日曜学校教師が 75 周年の聖劇を企画

☆「イエスは難民だった」：大主教がアングリカン・コミュニオンに対し
難民支援強化を促す

☆教会指導者らが、東アフリカの深刻化する干ばつに警鐘を鳴らす

☆南インド教会によると、キリスト者がクリスマスをめぐる「容認しがたい
敵意」に直面

管区事務所渉外主事 司祭 ポール・トルハースト

○世界最長の奉仕の年数を誇る日曜学校教師 が 75 周年の聖劇を企画

1951 年、当時 10 代だったパム・ノウルズ氏は、愛するリバプールの聖アン教会で子どもたちに聖書の物語を教え始めた。それから 75 年経った

今も、彼女は同じ教会で日曜学校の教師を続けており、2025 年 12 月には 75 回目となる聖劇を企画した。

現 在 87 歳のノウルズ氏は、ギネス世界記録に「世界で最も長く日曜学校の教師を務めた人物」として認定されている。この快挙を受

け、ノウルズ氏は数十年にわたる活動の中で最も心に残っている瞬間を振り返り、なぜ聖アン教会が彼女にとってこれほど特別なのか、以下のように語った。

「聖アン教会は私にとってかけがえのない存在です。私はここで洗礼と堅信を受け、結婚式も挙げ、亡き夫との結婚60周年も聖アン教会で祝いました。私にとっての召命はこれまでも、そしてこれからも聖アン教会と共にあります。ただただ、この教会が大好きなのです！私は子供の頃、両親と一緒に聖アン教会に通い始めました。そして13歳になったとき、教会の主任司祭から日曜学校を手伝ってほしいと頼まれたのです。」

「長年にわたり、日曜学校の形式はそれほど変わっておらず、3歳から7歳の子どもたちに、遊びや工作、歌、そして聖書の物語を提供しています。どの世代の子どもたちも、同じ形式と聖書の物語を楽しんできました。特に人気があるのは、イエスの誕生、ヨナとクジラ、そしてエデンの園の話です。小さな子どもたちもこうした物語には親しみを感じるようですし、純粋な解釈を聞かせてくれることは、本当に素晴らしいです。」

「最近の子どもたちは昔より行儀が悪くなっていると感じることもあります。昔より少し走り回ることが増えました。おそらく、少しリラックスした雰囲気になっているのでしょう。」

「74年も続けてきたという実感はありません。常に新しい子どもたちがやってくるので、始めたばかりの頃のような新鮮な気持ちに包まれる日もあります。今のところ、この奉仕を辞めるつもりはありません。まだエネルギーがたっぷりありますし、始めたばかりの頃と同じくらい情熱を持って取り組んでいます！」

○「イエスは難民だった」：大主教がアングリカン・コミュニオンに対し難民支援強化を促す

2025年12月初旬、ジュネーブで「国連世界難民フォーラム (GRF)」が開催され、アングリカン・コミュニオンの代表者たちが、難民や避難

民が直面している深刻な問題について意見を述べた。マインボ・ムンドルワ大主教（タンザニア聖公会首座主教、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 多宗教指導者会議におけるアングリカン・コミュニオン代表）は、世界的な難民支援のあり方に焦点を当て、国際レベルで難民を擁護するアングリカン・コミュニオンの取り組みと、地域レベルでの支援提供のための実際的な協力について強調した。



マインボ大主教の管区であるタンザニアは、その地域における難民支援の重要な役割を果たしてきた管区の一つで、紛争を逃れてきたコンゴ民主共和国やブルンディからの難民を含む避難民を支援してきた。避難民支援における教会の役割について、マインボ大主教は、「クリスマスにあたり、イエスもまた難民であったことを思い起こします。政治的な分断が進む現代において、難民や避難民が尊厳と希望のある生活を送れるように、とても重要なこの活動に聖公会員として団結し取り組みましょう」と述べた。大主教はまた、「難民や避難民に寄り添い活動することは、困難な国際情勢の中で、私たちが共通の人間性に基づいたビジョンを提示し、聖公会員として共に注力できるものです。2026年を迎えるにあたり、私たちはコミュニオンの世界的指導者たちに、この問題を最優先事項とするよう強く求めてまいります」と述べた。

○教会指導者らが、東アフリカの深刻化する干ばつに警鐘を鳴らす

ケニア北部の教会指導者たちは、アフリカの角（アフリカ大陸東部）で気候変動に起因する長引く干ばつが同地域を襲っているとして、緊急支援を求めている。マルサビット教区のダニエル・カンピチャ・ワリオ主教は、例年降るはずの雨が降らず、人々は水や食料を失い、家畜のための牧草地も失っているとして、緊急の人道支援が必要だと述べた。主教によれば、池を満たしたり植生を回復させたりするのに十分な雨さえ降ってい

ないという。「現在、深刻な水不足に陥っており、食料也没有ありません。以前は人々も大きな期待を抱いて農地で作物を育てていましたが、今ではすべてが枯れ果ててしまいました」と、ワリオ主教は述べる。

影 響を受けている地域の多くは、家畜を主な生計手段とする牧畜民の居住域であり、牧草地がなくなれば、家畜や牧畜民は死に瀕することになる。インド洋に影響を及ぼす「ラニーニャ現象」と気候変動が干ばつの原因とされており、その結果、降水量が平年を下回り、深刻な水不足、牧草地の枯渇、家畜の状態悪化を招いている。気候変動の影響は極めて深刻で、2024 年には、全域でそのシーズン中に降るはずの雨の量が11月のわずか1日に集中して降り、そして翌2025年4月まで雨は一切降らなかった。

国際NGOのACTアライアンスは、ケニアとソマリアの干ばつに対し、各世帯が命を救うための食糧支援と生活必需品の提供を求めて緊急支援を呼びかけている。その目標には、食糧支援、水へのアクセス改善、食糧生産、資産復旧を通じて、地域社会における死亡と疾病の減少などが含まれている

○南インド教会によると、キリスト者がクリスマスをめぐる「容認しがたい敵意」に直面

インドの教会指導者らは先日、「クリスマスシーズン中のキリスト者への攻撃が驚くほど増加している」ことに「深い苦悩」を表明する声明を発表し、インド各地で起きた脅迫、嫌がらせ、クリスマスの祝賀行事の妨害を含む「一連の事件」を非難した。声明が言及しているのは、キャロルを歌う人々への攻撃、クリスマス装飾の破壊、クリスマス礼拝に出席しようとする人々への暴行、クリスマス関連の衣料品を着用または販売している人々への辱め、そして反国家的・ヒンドゥー至上主義グループによるクリスマス集会への妨害行為などである。インドのナレンドラ・モディ首相がプロテスタントの大聖堂をクリスマスに訪問

したにもかかわらず、2025年末にかけてキリスト者やクリスマスの祝賀行事に対する違法事件が激化した。地元の団体「ユナイテッド・クリスチャン・フォーラム(UCF)」の報告によると、2024年のインドでは、少数派であるキリスト者への攻撃が1日平均2件以上発生し、記録された事件数は合計834件に上り、これはインド史上最多の件数である。これらの事件数は、2014年から2024年までの10年間で555%以上増加しているという。

声 明では、平和的にクリスマスを祝っていたキリスト者の中には、圧力、敵意、脅迫、妨害、破壊行為、強圧的な「道徳監視(モラル・ポライジング)」にさらされた者もいたと述べ、キリスト者が安全を感じられなくなり、信仰を实践する自由も失う状況に、徐々に追い込まれているのではないかと指摘している。インド憲法第25条は、国民に対し「すべての人は等しく、良心の自由を享受し、宗教を自由に信仰・実践し、布教する権利を有する」と保障しているが、最近のキリスト者に対する脅迫の波は、この憲法の施行に疑問を投げかけるものとなっている。南インド教会は、信仰の自由を脅かされている人々に寄り添い続ける決意を表明する声明の中で、「喜びと平和と和解の季節であるはずの期節に嫌がらせを受けた人々」のために哀悼の意を表した。そして「市民社会、あらゆる信仰の宗教指導者、そしてあらゆるレベルの政府当局に対し、法の支配を堅持し、少数派コミュニティの安全を確保し、すべての市民が恐怖や差別を受けることなく祭りを祝える環境を整備すること」を要請している。

pray for peace



休息と沈黙のリトリート

体と心と魂を休めます

日常の役割や責任から離れ、休息と静けさの中で
神様と自分に向き合う力が養われますように

日時：2026 年 2 月 22 日（日）～2 月 24 日（火）
場所：ナザレの家 東京都三鷹市牟礼 4 丁目 22-30

定 員：12 名

参加費：15,000 円（部分参加はできません）

申込み：1 月 15 日（木）～2 月 8 日（日）定員になり次第×切

申込者には詳しい案内を送ります

問合せ：kyouikp@gmail.com

共育プロジェクトHP <https://kyouikp.jlmdofree.com/>



QR コードからも
申し込めます

共 催：東京教区 信仰と生活委員会 共育プロジェクト
日本聖公会 ナザレ委員会

スケジュール(変更になる場合もあります)

時刻	2 月 22 日(日)	2 月 23 日(月)	2 月 24 日(火)
0730		朝の祈り/オリエンテーション	朝の祈り
0800		朝食	朝食
0900		自由黙想	自由黙想
1000			聖餐式（聖餐式後、沈黙終了）
1100			
1200		昼の祈り	
1230		昼食	昼食
1300		自由黙想	
1400			
1500	受付開始		分ちらい
1600	オリエンテーション		解散
1700	夕の祈り（沈黙開始）	夕の祈り	※沈黙の歩みの中で生まれた思
1830	夕食	夕食	いを整理し、祈りを深めるお手伝
1900	自由黙想	自由黙想	いをするために、自由黙想の時間
2030	コンプリン（就寝前の祈り）	コンプリン（就寝前の祈り）	に個別面談（霊的同伴）の機会が

＜共育 PJ メンバー＞ 高橋宏幸主幹 トーマス・アッシュ 上田重樹子司祭 植松功 内田香 高柳章江執事 林次慶執事





日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

general-sec.po@nskk.org 管区事務所総主事宛て